



速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

続・臨時休校アンケート特集⑥

にじみ出る部活・学祭への思い  
9月入学「賛成」の背景に



前号で取り上げたとおり、全体としては9月入学に「賛成」の人が多く、その理由に「授業の遅れが回復できる」とする人が44%を占めた。ただ、意外なことに3年生は、1・2年生に比べ、「回復」を理由にする人が10ポイントほど少なく、「その他」として選択肢以外の理由を挙げた人が多かった。ここでは、その「その他」の記述をいくつか挙げる。

**■賛成の「その他」意見**

- ・9月入学になれば、できていない行事などができる可能性があるから。(3年)
- ・入試の時期に雪やインフルエンザを気にしなくていいようになる。(3年)

・東鬼祭が開催できるかもしれないから(3年)

・なくなった大会や東鬼催芽できる可能性が増えるのではないかと思う。授業も学校生活も本来行えたであろう1年をやり直せると思う。(3年)

・部活動の最後の大会や、東鬼祭の開催が見込めるかもしれないから。(3年)

・コロナの第2波が来たら、入試制度の急変が起こりそう(3年)

・中止になったインターハイができる可能性がある(2年)

・コロナが5月で収束するとは思えないから(1年)

・友だちと過ごせる時間が増やせ、なくなった行事も行えるから(1年)

■反対の「その他」意見

・受験生である期間が長くなるのは厳しいから(3年)

・卒業が遅くなるとモチベーションが下がるから(3年)

・外部検定や記述問題がなくなったりと頼りにできず、安心してみていられない。だから、9月入学で生じる問題を対応できると思えない(3年)

・9月入学にすれば、それまでの数ヶ月間は何なのかよくわからない(2年)

・部活動の最後の大会が冬頃になり、十分な練習が困難になる(1年)

・この話の前に、まずはコロナを抑えることに集中すべきで、この話題よりも支援金など今苦しむ人を第一に考えて

今やるべきことがあつたに役立ち

教育紙記者 齊藤さんに聞く



モニター越しに答えていただいた齊藤さん

5月4日、新聞部員が朝日新聞の教育情報紙「eddy」の記者で教育問題に詳しい齊藤純江さんにアンケートについてビデオ会議でインタビューを行った。

9月入学のメリットについて「アンケートの記述にもあったとおり、授業や行事の復活の可能性はむしろんだが、海外の制度に足並みを揃えられることもあられる。9月入学は留学したり、留学を受け入れられたり、また「メリット」と話された。また「メリットを9月入学は園児から大学生まで多くの層に関係する。それにより多くの混乱も起きると考えられ、調整もかなり大変だ」と説明された。

現在、9月入学に関しては「まださまだまな意見が飛び交っており、実施についてはまだ予測がつかないようだ。齊藤さんはアンケート結果に対して「賛成が7割」という結果はかなりの多いように感じた。貴重な学校生活が短くなってしまふという悔しさが伝わってくる」と頷かれた。

現状については「新型コロナウイルスの終息が見通せない中、政府は、まずは学校再開に向けて調整や大学の推薦入試の時期の検討などに追われていて、9月入学や大学の一般入試がどうなるかの予測は難しい」と話された。齊藤さんは「生徒が意見することについては「現状さまだまな意見があり、そのなかには行事や授業を我慢しろという意見もある。だが何かをやりたいという気持ちは大切だ。その気持ちの表明は決して悪いことではない。意思表示をしなければ伝わらないこともある」と語気を強められた。

最後に齊藤さんは私たちに向けて「不安も大きいと思うが、やることをやってみれば、受験を含め、必ず休校が明けたときに役に立つと思う。今はとにかく目の前のことにとらわれてほしい」とメッセージを送られた。

ほしい

(1年)

■新聞部の目線

思いもよらず沸き上がった九月入学の案。それは私たちに希望と同時に不安を与えた。今回のアンケートでは九月入学に対する賛成意見が多かった。それには行事や授業の復活の可能性が関係している。高校生にとって学校行事は、二度と経験できないものだ。学年が変わればその内容も役割も変わるので、毎年の行事は唯一のものだ。また受験が控えている高校生にとって授業もとても大切なものである。自学よりも心の支えとなる。それらが本校生の心を動かし、アンケートの結果につながったのだろう。学生の心を揺らす九月入学。これからの動向に注目したい。